

有村 智賀志（ありむら・ちかし）

1、プロフィール

童話、次いで西北地方の同人誌での創作活動、一転して昭和 55 年以後推理小説を志向、多くの作品を残した。一方、編集・本作りにも才能を示した。

<生没>

1934(昭和9)年5月18日～2001(平成13)年3月22日

<青森との関わり>

教職にありながら文学活動を続け、地元紙・童話集・同人誌に小説・童話・推理小説作品を残した。

2、作家解説

昭和9年青森市に生まれる。本名前田一良。昭和30年弘前大学卒業。鱒ヶ沢中学校に勤める。鱒ヶ沢郷土読本編集委員。創作同人誌「西浜」に投げ小説を作り、東奥小説賞佳作入選。県文芸新人賞受賞。青森県教育厚生会発行文芸誌「三潮」の編集委員長を務める。昭和39年から青森県児童文学研究会に属し、童話も書く。県文芸協会員。日本推理作家協会員。神津恭介ファンクラブ会員。日本シャーロック・ホームズ・クラブ会員。以下に著作を挙げる。

青森県むかしむかし絵本 10『ばけものでら』青森県児童文学研究会 昭和50年

『みちのく探偵双紙』北の街社 昭和55年

「宇曾利湖畔」(川島雄三)「狐狗狸始末」(鳴海要吉)

「風狂おしく」(菅江真澄)「三つ葉の誓い」(広沢安任)

「七里長浜」(野沢如洋)「活動写真」(佐々木五三郎)

以上のように5篇の県人を題材とした短篇からなる。

『殺意の布石』北の街社 昭和62年

難病の少年林美土里君が県困碁名人戦にからむ事件を解決する話。

※『ミステリーの魔術師・高木彬光と作品』北の街社 平成2年
『軍国美談』(続みちのく探偵双紙) 北の街社 平成6年
『油川代官所御用控』北の街社 平成10年
『じねんじょ一代・小説・佐々木五三郎』北の街社 平成12年
『ミステリーと煙草』クリエイト近江や 平成15年
平成13年3月22日、長逝。最後の著書は遺作集。

※は郷土の大先輩高木彬光を豊富な資料を駆使した評論として評価されている
(「月刊あおもり」連載)。